



©APDA

2006年 高崎経済大学で開催された国内セミナー

APDAは毎年、各都市で人口と開発をテーマに一般市民向けセミナーを開催しています。2006年12月には群馬県高崎市の高崎経済大学で「人口問題・少子高齢化を考える」と題したセミナーを開催しました。国会議員が活動するためには選挙で当選することが必要です。しかしいくら良いことをしてもなかなか報道されない日本の現状の中で、国会議員の国際貢献などが選挙民に訴えかける材料として考えられることはあまりありません。日本は資源のない国ですから、平和的な国際関係の中でしか

生きていけないにもかかわらず、そのことが意識されることはあまりありません。しかし、「票にも金にもならない」努力があって初めて日本の将来は希望のあるものとなるのです。グローバル化で地球が狭くなった現在、途上国の人口問題はそのまま日本の問題でもあります。将来の有権者である大学生に対する国内セミナーの第1弾として、人口問題の意味、地球環境と人口、高齢化をどのように考えるかについて講演を行いました。

なぜ国会議員が人口問題を扱うの？(5)

法律を作るのは国会議員ですが、その法律も国民にとってその法律が正しいと思われなければ有効性を保ちえません。その意味ではその法律が国民に支持されることがなければ本当の効果は発揮できないのです。つまり国会議員が理解して法律を作ると同時に、その法律が国民によって支持されるよう

な努力をする必要があるということです。そのためには国会議員が人口問題の重要性についての理解を形成すること、国会議員を選んでいる有権者の理解を形成することがきわめて重要なことです。APDAの活動の中心もそこにあります。

Public Seminar, Takasaki City University of Economics, 2006

APDA also organizes public seminars every year in various cities in Japan on population and development-related issues. In 2006, a public seminar entitled "Population Issues and Aging Society with a Declining Birthrate" was held at Takasaki City University of Economics, Gunma Prefecture. This was the first seminar

targeted particularly to university students who are eligible or prospective voters in order to advocate for the significance of population issues on the global environment and of Japan's assistance to developing countries.

Parliamentarians and Population Issues (5)

Parliamentarians are responsible for implementing appropriate legislation and national policies. Without public support, the legislation is unable to serve its purpose. APDA's activities aim

to raise the priority of population issues on national policy agenda and increase the public understanding and support for these issues.

